

後 期 基 本 計 画 (案)

(第5章関連)

平成22年8月27日現在

第5章 魅力ある産業と活力のあるまちづくり

第1節 まちの特性を生かしたふるさと創造を図ります

第1項 商業の振興

(1) 現況と課題

- 本町の商業は、自然発生的な路線型商店街に限られ、近隣市における産業、開発、郊外の大型店舗等の影響や町民の価値観の多様化、ライフスタイルの変化によって町民の購買力の流出等の問題が発生しており、**寒川駅北口地区土地区画整理事業**と歩調を合わせた活性化策を推進する必要があります。~~また、共同駐車場の整備については民間も含めた検討が必要です。~~
- 本町では、町民の定住意識の高揚と、魅力あるまちをめざすために、平成11年3月に中心市街地活性化基本計画を策定し、寒川駅北口地区を中心とした本町の中心商業地の整備を進めています。
- さがみ縦貫追路の整備により、本町にできる2つのインターチェンジ周辺や東海道新幹線新駅誘致地区周辺は、今後、広域交通の拠点となり人・物・情報等の交流も活発になると予想され、広域との連携、町内の各拠点との連携が必要となってきています。

(2) 基本方針

- 消費者のニーズに対応した魅力ある商業の振興を図るため、地域の特性を生かした商業環境の整備を図ります。
- 寒川駅周辺は、中心市街地として商業の活性化を図ります。

◆町民・事業者の立場から ~町民ワークショップ提案~

(3) 施策の方向

◆商業強化の推進

- ・町全体への商業の発展に向けて、購買力の流出を防ぎ、町外からの顧客の確保を図るため、商工会などとともに、寒川らしさを感じる特産・名産などを創出し、商業の魅力づくりを支援します。
- ・寒川神社の参拝客をはじめ、多くの来町者に親しめる商店街づくりを進め、商業の活性化を図ります。

◆中心市街地活性化の推進

- ・寒川駅北口地区土地区画整理事業の早期完了を目指し、本町の中心商業地として商業の活性化を図ります。

◆商業環境の整備

- ・地域の特性を生かして各種機能を備えた魅力ある商業環境の整備を図るとともに、経営の安定化や店舗の近代化等を図ります。

(4) 計画期間における目標指標

指標名	単位	現状値	年度別目標値			
		H20	H23	H24	H25	H26

() 主要事業

-
-
-

第5章 魅力ある産業と活力のあるまちづくり

第1節 まちの特性を生かしたふるさと創造を図ります

第2項 工業の振興

(1) 現況と課題

- 本町の工業は、昭和30年代後半から積極的に企業誘致を行ってきたことから、平成 年
の工業統計調査では事業所数 事業所、従業者数 人、製造品出荷額等 円で、主要な
業種は となっています。
- さがみ縦貫道路の供用開始を間近に控え、(仮称)寒川南インターチェンジ周辺の田端
西地区を産業集積拠点として、工場、工業の配備、再配備などの土地利用計画を検
討する必要があります。
- 企業の流出や事業の縮小を防止するため、企業立地促進の奨励策により企業等の立地を
促進、また、平成18年度にスタートさせた「企業等の立地促進に関する条例」「中小
企業施設整備資金特別融資制度」の見直しの時期にきており、県や近隣市町との連携も
必要です。

(2) 基本方針

- 地域環境に配慮した企業や研究開発型の企業誘致を図り、新たな産業集積を図りま
す。

◆町民・事業者の立場から ~町民ワークショップ提案~

(3) 施策の方向

◆工業環境の整備

- ・社会環境の変化にともない、既存企業の保護や新たな企業の進出を促す立地環境の整備を図ります。また、自然環境と生活環境に配慮し、工業製品の付加価値づくりのため、新たな産業を創出する企業との連携を図ります。
- ・本町の工業地としての優位性などを積極的に事業者にPRし、優良企業の誘致等による工業ブランド力を高めていく取り組みを進めます。また、さがみ縦貫道路(仮称)寒川南インターチェンジ周辺の田端西地区の整備に伴い、企業誘致を関係機関と連携しながら推進します。

◆中小企業の育成

- ・経営基盤の確立に向けて、中小企業の設備の近代化や経営の安定を図ります。
- ・ニーズに即した有効的な中小企業への助成を含め、中小企業振興策について検討します。

(4) 計画期間における目標指標

指標名	単位	現状値	年度別目標値				
			H20	H23	H24	H25	H26

() 主要事業

-
-
-

第5章 魅力ある産業と活力のあるまちづくり

第1節 まちの特性を生かしたふるさと創造を図ります

第3項 農業の振興

(1) 現況と課題

- 本町の農業は、基盤整備として土地改良事業等を行ってきました。また、農業用車両が利用しやすい農道の整備や農業用排水路の整備等も行っていますが、老朽化している箇所があり、特に花川用水は老朽化が著しく、計画的に改修する必要があります。
- 都市化の進展により農地が減少し、農業就業者の高齢化や後継者不足によって農地の荒廃地が増えてきています。
- 本町では、首都圏 50 km 圏にあり、稲作、野菜栽培と温室等を利用したスイートピー、洋らん等の花き栽培や梨、柿等の果樹栽培等が行われており、都市型農業としての経営の支援、花きや高付加価値野菜の需要に対する対応や商業活性化とどのように連携していくかも課題です。
- 町内で生産された農産物等を町内で消費する地産地消については、わいわい市の好評等を得ています。

(2) 基本方針

- 農業生産基盤の整備を進め、都市型農業の地域性を生かした経営の安定化と農業の振興を図ります。
- 町民と農業のふれあいづくりの推進を図ります。

◆町民・事業者の立場から ~町民ワークショップ提案~

(3) 施策の方向

◆農業生産基盤の整備

- ・農業用水の安定供給を図るため、施設の維持補修対策を進めます。
- ・農業の生産性の向上とともに環境に配慮した農道や用排水路の整備を図ります。

◆農業経営対策の推進

- ・地域の特性を生かした農業の振興を図るため、新たな技術の導入や施設・設備の整備により、都市型農業としての経営の改善に努めます。
- ・都市型農業の地域性を活かした花きや果物などの高付加価値農産物を中心としたブランド化を進め、わいわい市を核とした地産地消を推進します。
- ・農業後継者の育成を図るとともに、新規就農者の受け入れについて検討を進める。

◆ふれあい農業の推進

- ・農地の有効利用や土と親しむための場づくりを行い、町民に農業に対する理解を促進します。
- ・農業の持つ多様な波及効果（自然環境の保全、生物多様性の確保、子供の育成、教育、体験レクリエーション 等々）をふまえ、多様な視点から農業の継続、活性化を進めます。

(4) 計画期間における目標指標

指標名	単位	年度別目標値				
		H20	H23	H24	H25	H26

() 主要事業

-
-
-

第5章 魅力ある産業と活力のあるまちづくり

第1節 まちの特性を生かしたふるさと創造を図ります

第4項 勤労者対策の充実

(1) 現況と課題

- 厳しい雇用情勢のなかで、女性の就職やリストラ・雇い止めを受けた方の再就職にむけた、現実的な就労支援策が望まれます。また、労働者の賃金が下がる中で、勤労者の生活の安定を支援するような施策が強く求められています。
- 非正規労働者の増加や団塊の世代が定年を迎えるにあたり、新たな雇用の創出の場の確保が必要です。
- 人口減少社会の到来や少子化の進行を踏まえ、次世代の労働力を確保するため、仕事と育児の多様な働き方の提供が求められています。
- 情報化や国際化、高齢化等の社会環境の変化にともない勤労者の労働時間の短縮や男女平等社会への取り組みなど労働環境の改善が求められています。

(2) 基本方針

- 就労機会の提供を図ります。
- 勤労者が安心して暮らせるため、就労環境の整備と充実を図ります。
- 勤労者の福利厚生を充実します。

◆町民・事業者の立場から ～町民ワークショップ提案～

(3) 施策の方向

◆就労機会の提供

- ・就労機会の提供のため、情報提供の充実による就労意欲の喚起や、町とハローワークとの連携など、より具体的・現実的な就労支援策の検討や体制づくりを進めます。

◆就労環境の整備

- ・企業との連携により、仕事と家庭を両立できる労働環境の整備など、安全で快適な職場環境の整備を促進します。

◆勤労者福利厚生の実施

- ・住宅資金の利子補給及び勤労者生活資金等、制度を見直し、勤労者の持家促進と生活の安定・向上を図ります。

(4) 計画期間における目標指標

指標名	単位	現状値	年度別目標値				
		H20	H23	H24	H25	H26	

() 主要事業

-
-
-

第5章 魅力ある産業と活力のあるまちづくり

第1節 まちの特性を生かしたふるさとの創造を図ります

第5項 観光の振興

(1) 現況と課題

- 本町には、相模川などの自然資源や、年間約190万人が訪れる寒川神社など歴史的な資源があります。しかし、これらの資源が観光資源として十分に生かされていないのが現状です。
- 観光協会を中心に、町民参加型の新たな観光資源を発掘するなど、事業展開を行ってきましたが、今後は、商業、農業などと連携した施策展開が必要です。また、町内に点在化する観光資源を有機的にネットワーク化し、観光の拠点づくりも求められています。
- 本町の特産品として農業と商業が連携して梨ワインなどを開発してきましたが、今後も特産品の開発、販売を支援し、観光につなげることが必要です。

(2) 基本方針

- 町の観光資源を生かした魅力ある観光の発掘や充実を図ります。

◆町民・事業者の立場から ～町民ワークショップ提案～

(3) 施策の方向

◆観光資源の創出

- ・観光協会と商工会との連携の強化により、新規観光資源の開発や商業振興に結びつく観光事業のあり方を検討します。
- ・年間約 190 万人の参拝者が訪れる寒川神社とわいわい市などとネットワーク化した観光導線をつくることにより、短時間滞在型から長時間滞在周遊型の観光誘導を検討します。
- ・町民が誇りを持てるような観光事業を新たな視点から観光協会とともに進めます。
- ・地域の限定商品の開発など新しい視点や協力体制による観光振興を検討します。

◆観光推進体制・施設の整備

- ・「湘南」地域を意識した広域的な観光、PR戦略、近隣都市や立地企業などとの協力体制を構築します。
- ・利用者のニーズに対応した観光案内板等の観光施設の整備を図ります。

(4) 計画期間における目標指標

指標名	単位	現状値				
		H20	H23	H24	H25	H26

() 主要事業

-
-
-